

平成27年度 第19回政策推進会議報告

日 時 1月5日 9時30分～10時51分

場 所 4-1会議室

出席者 20人

1 年末年始期間中の業務状況等について

企画財政局長から報告

- ・業務としての出勤はなし。
- ・平成28年度はいよいよ市制100周年の年であり、予算編成や議会も含め精一杯取り組んでいきたい。

総務局長から報告

- ・年末に文書管理システムのトラブルが発生したため情報政策課の職員が出勤し、年始には市民課のフロア改修のホストコンピュータの通電等のために出勤した。

防災担当局長から報告

- ・生活安全課の職員が12月29日から12月31日までの3日間延べ3人出勤し、ひたたくり防止等、尼崎市自主防犯パトロール(青色パトロール)を実施した。平成27年1月から12月のひたたくり件数は速報値で71件で、前年の150件から79件減少した。一方、交通死亡事故では12月28日21時に東園田町4丁目の車道の上で寝ていた66歳の方が轢かれる事故が発生し、平成27年の交通事故による死亡者数は16名となった。
- ・ひたたくりや交通事故も含め、どちらかという国防犯・交通安全が少し忙しくなっているが、防災についても、この正月は気温が16という異常気象で心配である。大きな局ではないが、全員で一丸と取り組んでくれており、私もリーダーシップを取って取り組んでいきたい。

資産統括局長から報告

- ・保全担当の警備室の業務として、12月29日から1月3日の6日間の各種届出は、合計134件受け付けており、主な内訳は死亡が73件、出生が11件である。
- ・公有財産課の職員が12月31日、1月1日を除く4日間で本庁、市民課、各サービスセンターへ広告付き番号表示システムの入替業務を市民協働局と行った。
- ・12月28日の業務時間外から12月30日までの3日間かけて、本庁市民課のレイアウト改修で、本庁舎にあった受付カウンターの撤去工事を実施した。
- ・公営事業所では、12月25日から12月30日まで「今年もありがとう競走」を開催しており、総売上が11億6,500万円であった。なお、1日平均1億9,500万円で、前年比でいうと116%と売上が上がってきている。外向け発売所(サンプルピア)では、12月29日から1月3日の6日間で1億4,300万円売り上げている。前年の12月31日は1日で約5,000万円の売上で過去最高を記録したが、今回は福岡であったG1レースの優勝戦で1号艇がフライングをしたことにより、10億円の返還金が出た影響を受け、サンプルピアでの売上が1,000万円程度落ちて3,900万円の売上となった。
- ・今年各局の皆様にご協力をいただきながら進めていく必要がある業務があり、1つ目は公共

施設のマネジメント計画について、今年度中の策定を目指しているが、今後 10 年間程度の施設の統廃合、残す施設の保全計画を策定する予定としている。昨年までに業務委託で各施設に業者が出向いて施設の点検や聞き取り調査を行ったが、必ずしも十分ではなかったため、直営で今月以降各施設を回ることにしている。主に旧耐震の施設の設備関係がどうなっているか目視を行い、施設管理者とヒアリングをさせていただきたい。また、基本的には旧耐震で老朽化が進んでいる施設については、廃止という判定になるが、機能をどうしていくかということについては、企画財政局及び各局の皆様と協議しながら決めていく必要があると思うので、ご協力をお願いしたい。2つ目が本庁舎の耐震工事が平成 28 年度と恐らく平成 29 年度にかけてさせていただくことになる。特に南館に入っている所属については、ご迷惑をお掛けすることになると思うが、ご協力をお願いしたい。議会等の旧棟についても、耐震補強を行うので、全ての局への影響ではないが、複数の局にご迷惑をお掛けすると思うが、よろしくをお願いしたい。

市民協働局長から報告

- ・コールセンターへの問い合わせは、12月29日から1月3日の6日間で559件で、昨年度の626件より67件減少しており、特に緊急を要するような大きな問題はなかった。問い合わせとして多かったのは、年末年始の各課の業務の取扱い、ごみ収集に関すること、国保年金、生活保護等である。12月29日に小田地域のほうで火災があり、下坂部福祉会館へ一時避難を行った。
- ・市民課において、1月4日からの窓口の業務委託に向け、年末年始にかけて職員一丸となって対応した。窓口の業務委託の完全実施については、当初1月からを予定していたが、1月は試行期間として業者の習熟度をあげるため、2月1日からに変更した。
- ・今年は申年で、申年は時代の大きな変換点として今までの努力が1つの形となって表れてくる年だと何かで読んだことがあり、市制100周年という非常に大きな節目の中で、将来を見据えて市民課の窓口の業務改善や自治基本条例の制定や学習する地域ということでみんなの尼崎大学など色々な取組を形に表していきたい。引き続き、健康ということでヘルスアップ事業や地域振興センターについては地区会館との合築等の取組を進めていきたい。

医務監から報告

- ・休日夜間急病診療所の状況について、12月29日から1月3日の6日間の受診件数が、内科、小児科、耳鼻科、眼科の全て合わせて2,326件で、昨年度は休みが長かったが同じ6日間だけで比較すると、受診率は前年比55.1%で減少している。個別で見ても、内科が前年度の37%、小児科が半分の50%、耳鼻科が69%、眼科は少し多めの111%という結果であった。歯の関係では、口腔衛生センターでは急患で133件の受診があり、前年の210件と比較すると63%の受診率であった。
- ・生活衛生業務では、食品衛生監視員が卸売市場に12月29日、30日と2名が出勤し、監視指導を行った。
- ・斎場では、元日を除き5日間で大人の件数が79件あった。斎場の最大稼働能力が一日あたり18件に対し、12月29日及び1月2日は最大の18件行ったため、5日間でたくさんの方がお亡くなりになった。
- ・今年はアスベスト、煙草対策、救急医療体制の整備等の課題解決に努めていきたい。

健康福祉局長から報告

- ・福祉部門においては、今年と比較的静かな年末年始であったが、先ほど話があった 12 月 29 日に発生した小田地区の火災で 2 世帯に小災害見舞金を交付した。
- ・福祉関係では課題が山積しており、認知症の対策、介護予防等の総合事業の実施に向けての取組や今年度から始まっている生活困窮者支援もさらに進めていかなければならない。また、災害時の要援護者対策も進めていかなければならないので、1 月からしっかりと取組を進めていきたい。

健康福祉局参与から報告

- ・去年の保健所としては、MERS（マーズ）や中東からラクダの乳を飲んで帰ってきた人が経過観察になったり、エボラの待機など治療法が無い疾患に対して取り組む大変さを実感した。
- ・昨年 7 月に尼崎総合医療センターが開院し、ICU の機器が 100 もあり、良い意味でも悪い意味でも医療が混乱している。それに加えて、地域医療ビジョンという 2025 年に向けて、75 歳以上の方が 30% 増えるのに対し、長期療養病者を 25% 減少するという医療の改革が行われようとしていて、市内の医療機関が危機している状況が続いており、出来るだけ医療とも介護とも情報共有、連携を図って、尼崎の医療介護の何らかの道筋をつけるよう努めていきたい。

こども青少年局長から報告

- ・年末年始の業務報告としては特になし。
- ・待機児童の関係で、児童ホームと保育所への今年度の 12 月までの申請件数は昨年と同じくらいだが、1 月から 3 月があるため予断は許さない状況で、4 月、5 月の待機児童数を注視していきたい。待機児童の解消に向けて、丁寧なご案内や利用者支援を行い待機児童の抑制の取組をさらに進めていきたい。

経済環境局長から報告

- ・年末年始のごみの収集については、12 月 30 日までと 1 月 4 日から行っている。週 2 回のごみ収集に変更してから 3 年目になるが、昨日一日状況を見ていると大きな混乱もなく、定着したように思う。ただ、1 月 4 日から 6 日は年末年始のごみが溜まっているため、収集体制を強化して行っている。
- ・卸売市場では、今朝 5 時から初市式を行った。2 年間青果の卸売業者が無い中だったが、今年も青果も水産もある中での初売ができたので、市場の関係者の方にも喜んでいただけたように思う。
- ・申年は干支で言うと、「申す」という漢字であるため、物申す組織になってほしいと職員に伝えた。行動ももちろん変えなければいけないが、物も言わなければいけない。課題を極力残さないよう取り組んでいきたい。

都市整備局長から報告

- ・年末年始の業務としては、下水道施設の関係で処理場やポンプ場の維持管理で延べ 178 人、一日あたり 29 人から 30 人出勤し、特に問題は発生していない。年末に公園の不法投棄の処理や、先ほどの小田地区の火災関係で、一時的に市営住宅に入居させてもらえないかという相談があった。なお、道路関係の現場立会のため 3 人が出勤し、合計で 181 人が出勤した。

- ・仕事については型にはまらずに、市民のためあるいは尼崎のためを考えて前向きに仕事をしよう職員に伝えた。
- ・10月16日の市制100周年記念あまがさきハーフマラソンは、関わってくださっている市内の産業界の方々と一緒になって成功させたい。競艇場も開放してもらえたので、どんどん会場に人を運んでいきたい。
- ・日にちは未定だが、長年工事をしてきた長洲久々知線が今年開通する。人と車は通れるようになるが、周辺の工事はもうしばらく続く。

消防局長から報告

- ・年末は建物火災が2件で初期消火を行った方等、負傷者が2名いるが、大事には至っていない。年始は、武庫之荘で腐った原付バイクが燃やされている火災が1件と、比較的少ない件数であった。年間の総件数は、141件で近年に無く少ない数字で昨年より7件少なく、喜ばしいことである。救急の出動件数は、昨年の年末年始に比べると件数は落ち着いているが、年間総件数は27,473件で前年より700件増加しており、過去最高である。
- ・最近の特徴として、閉じ込め救助の通報が一日2、3件と増えてきている。年々増加しており、昨年も300件近くあった。
- ・火災の件数が非常に減ってきているため、若い職員の現場での経験値が減っているため方法を考えなければならない。

水道事業管理者から報告

- ・年末年始の職員の出勤について、管路の維持・修繕業務、神埼浄水場の設備の管理、工業用水は運転運転監視業務で水道局全体として延べ77人が出勤した。
- ・3期(28年度から31年度まで)の事業運営方針を策定しているが、その先も試算したところ、かなり厳しい状況になっている。全国的にみてもそうだが、施設工事の時期となっていて、その上工事単価も上がってきていて、手を打てるところは打っていかなければならない。

自動車運送事業管理者から報告

- ・12月30日から1月3日まで祝日運行とし、年末年始の事故件数は0件であった。今年度の1月3日時点での事故件数は26件で、昨年の同時期と比較すると2件多い。平成26年度は年間31件、平成25年度は年間42件で、取組を行ってきた結果、事故件数は減少してきているが、あと1件で今年度の目標件数27件となるため、非常に厳しい状況であるが頑張っていきたい。
- ・交通局の幕引きの3月19日まであと3ヶ月だが、安全安心で最後まできっちりとやりきろうと職員へ伝えた。また、交通局の幕引きから移譲引継まで漏れなく、後で後悔が無いようきっちり行っていきたい。

議会事務局から報告

- ・12月28日の業務時間外から年末火災特別警戒の激励のため、総務消防委員が市内の各消防施設を巡回し、職員も2人同行した。
- ・議会のあり方検討委員会と市制100周年の取組の検討委員会において、議論が行われているが、課題が山積しており、戦略的に取り組んでいかなければならない。

教育次長から報告

- ・年末年始の業務報告については、耐震化工事が今年度末までと大詰めを迎えており、12月30

日まで工事を行った。

- ・双星高校で火災が1件あったが、誤作動であったとのこと。
- ・大量退職の時代を迎え、若い職員がたくさん入ってきて知識、技能が継承されていない中で、頑張っていかなければいけないという話が以前に市長よりあったが、今年は「ひと」を育てる一年にしたい。自戒を込めて言うと、自分がやったほうが、判断したほうが早いからと、つい手を出すような仕事の仕方をしてきたように思うが、それでは組織が育たない。子どもを育てることは当然として、職員、組織を育てる一年間にしたい。

教育長から報告

- ・今年度は非常に大きな節目の年で、1つは市の大きなお金を使った学校の耐震化工事が終わること。2つ目は学校の統廃合についてで、平成28年3月をもって幼稚園5園、小学校1校、中学校2校、高校2校と全部で10校園が幕を閉じるということで、最後は特にきちんと丁寧に対応していきたい。
- ・職員に昨年度は尼崎の教育の良さをもっと知らせようということで、打って出る年だと伝え、新聞にもたくさん掲載され非常に良かった。今年はそれを経て、100周年に向けて更なる高みを目指すように取り組もうと伝えた。

岩田副市長から報告

- ・各局長の課題を聞かせてもらい、100周年と言えども課題があることを改めて認識した。私の出来る範囲で一生懸命、自分の任務を果たしていこうと思うのでよろしくをお願いしたい。

村山副市長から報告

- ・各局長の話聞いて感じたことが2つある。1つが、この幹部メンバーの局長達を皆若いと思っていたが、そうでも無くなってきたように感じ、幹部会の活性化を図っていかなければならないと思った。もう1つが、ひったくりの話で、犯罪件数を減らすことは難しいことだと思っているが、努力すれば実るということが今聞かせてもらってわかった。防災担当局だけの話でなく、全体としても良い話として、職員みんなで努力していきたい。
- ・昨年からはあるが、今年は「学びと育ち」がテーマで、子どもだけでなく、全ての人にとっての「学びと育ち」ということを考えていくような社会になっていかなければいけないと思うので、その方向に向けて頑張っていきたい。

稲村市長から報告

- ・今年は100周年の年だが、この100周年ということにあまり気を取られすぎることではなく、100周年というチャンスを生かして、課題をしっかりと前に進めていく。また、魅力を磨いていき、まず自分、市役所が率先してチームを作っていく一年にし、それを次の100年の礎にするような一年にしたいので、今年もよろしくをお願いしたい。

2 介護予防・日常生活支援総合事業実施方針等の策定に係る「基本情報」及び「政策形成プロセス計画書」の公表について

健康福祉局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- (市長) 全体で局またぎの部分が出てきたら、政策調整部会を行うべき。際限なくサービスを提供出来るのであれば良いが、ただでさえ尼崎市の介護保険料は高いし、無尽蔵に自己負担

をお願いしていくことも出来ない。一方で、本市は介護の事業者が多いという特徴もあり、供給が確保されているという良い面もあれば、事業者の意見ばかりだと持続可能でない制度になってしまうと困るし、バランスが求められる。また、健康同様、予防にしっかりと力を入れて、必要なものを削るのではなく、そもそも必要な量を抑えていく取組が大事で、非常にまちづくりに関わってくる問題である。

3 その他

- ・企画財政局長から、第6回全国工場夜景サミット in 尼崎について説明。
- ・市民協働局長から、尼崎市生活習慣病予防ガイドラインの手引き(就学前編)について説明。
- ・市民協働局長から、ヘルスアップ尼崎戦略事業フォーラム、健康・未来・経営を考えるフォーラムについて説明。

以 上